

2025年3月10日発売新刊

その地域らしさを、「人」を軸に描くローカル・マガジン

『地元人』創刊号：兵庫加東 ご案内

兵庫県加東市のひとり出版社 スタブロックスと申します。

2020年4月21日に地元の加東市でスタブロックスを設立し、
地域に根ざした出版活動を行ってきました。

設立以来、テーマのひとつにしてきたのは、地方の魅力と可能性を追求した本づくりです。

2021年には、地方での新たな働き方、
暮らし方を提唱する『ローカルクリエイター』を発表。

2023年には、人口4000人のまち、
滋賀県長浜市西浅井町を舞台にした地域活性化の
クレイジーな事例集『RICE IS COMEDY』を上梓。

そして2025年3月10日、
地方発本第三弾となるローカル・マガジンを創刊します。

その名も『地元人』（創刊号：兵庫加東）。

構想10年、チームでつくり始めて1年半。
地元人の生きざまを描く唯一無二のローカル誌の誕生です。



ようこそ、
私たちの地元へ

ローカル・マガジン

『地元人』創刊の思い

地域の主体は「人」だからこそ、その地域らしさを、「人」を軸に描いていく。その地域で生きる人たちの営みから見えてくる血の通ったストーリーを地元主体で掘り起こし、なぜこの土地なのかという彼らの思いや生きざま、価値観を通して地域の魅力を浮き彫りにしていく。そんな地元人の実像と物語にこそ、その地域の本質的な価値が隠されているのではないか。

その地域らしさを、
「人」を軸に描く



その地域らしさを、「人」を軸に描く 地域刊『地元人-JimotoJine-』

創刊号 兵庫加東

地域ごとに持ち回りで出版していくローカル・マガジン、地域刊『地元人』。

「その地域らしさを、『人』を軸に描く」というコンセプトのもと、創刊号では版元であるひとり出版社スタブプロックスの所在地「兵庫県加東市」で本づくりチームを結成し、加東にゆかりのある多様な「人」にフォーカスしたコンテンツを届ける。

メイン特集は100ページ規模の「地元承継：水物語」。先人が造り上げた東条川疏水の物語に始まり、酒米・山田錦の最適な栽培環境を誇る特A地区の土壌、階段状になっている地形を解説。水利と土地について語ったうえ、それを受け継いだ地元人の物語へと続いていく。

伝えたいのは一貫して「人」。生まれ育った加東市松沢の田んぼで米づくりに励む藤原弘三氏（株式会社藤原・専務取締役）の挑戦、加東市にUターンして国内外で高く評価されるアーティスト・竹内紘三氏の生きざま、受け継いだ土地を活かしてブドウを育てる岩崎農園の職住近接の豊かな暮らし……いずれも「なぜこの地で活動するのか」、そんな問いで彼らの人生を深く見つめていく。

企画・編集：地元人編集舎（兵庫加東）
本体価格：本体2,200円＋税 ISBN978-4-910371-08-5 C0036
仕様：A5判並製本・240頁フルカラー 発売日：2025年3月10日

書籍詳細

地元で本づくりチームを結成し、 チームで地元の価値を再発見して編む

地元で本づくりチームを立ち上げ、そのチームが主体となって地域の価値を掘り起こし、一冊の本に仕上げました。

本づくりの主要メンバー

地域の生き字引的存在の元小学校教師/地元行政に携わる市役所職員/地域の文化事業を牽引する文化会館職員/地方創生を学ぶ社高校生活科学科5名/SNSを活用して加東市を発信する住職/結婚を機に加東市に移住した女性アーティスト/外から加東市の良さを見つめる市内大学附属図書館職員/スタブロブックス高橋



240ページ、フルカラーで地域を描く

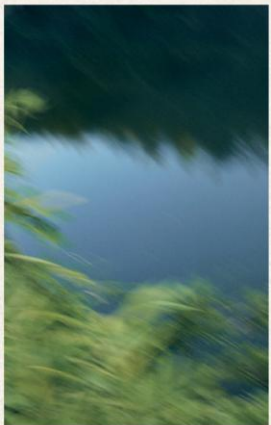


外来種のぶつこさ

文 | 日向理恵子

悪らすい、或たは、なかなかおそれぬと感じることがある。
ここは本島は島が離れ、島ではないのでないか、そんな気がしますが、しかもここから
いってしまう、野山だ、たまたまに必要に迫られて、まわらざるに踏み出さなければならぬ。つづきに、
自分は大きな島を歩いてきているのだ。

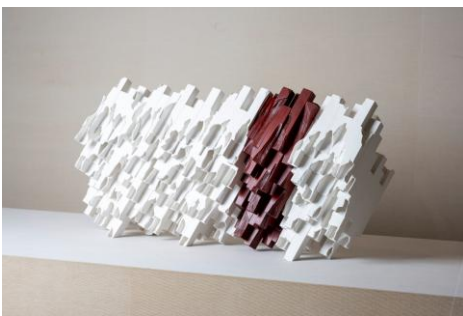
藤原かづの「藤原かづのひくろしむとだつたので、しぜんと自由活動して、い、場所が紙の七、
文字のなかにまぎらわって、西日本のことは多岐にわたるが、藤原かづのアスファルト
に描かれてゆく花をのちたりとすくることが、年々さびしくなつてゆく、藤原にゆかりのい
た文化が生かされている自分を、本島を作り、またその内島へ戻して。



児童文学作家 日向理恵子さんによる「地元エッセイ」

日向理恵子
児童文学作家。主な著書に「雨ふる本屋」シリーズ、「いばらの髪の毛のノラ」シリーズ(ともに童心社)、「火狩りの王」シリーズ(ほるぷ出版)、『日曜日王国』(PHP研究所)、『迷子の星たちのメリーゴーラウンド』(小学館)、『ネバーブルーの伝説』(角川書店)など。

立体造形アーティストとして国内外で高く評価される地元人、竹内紘三氏の実像に迫る



「地域を編む」とはどういうことか

——地元で本づくりが始まるまで

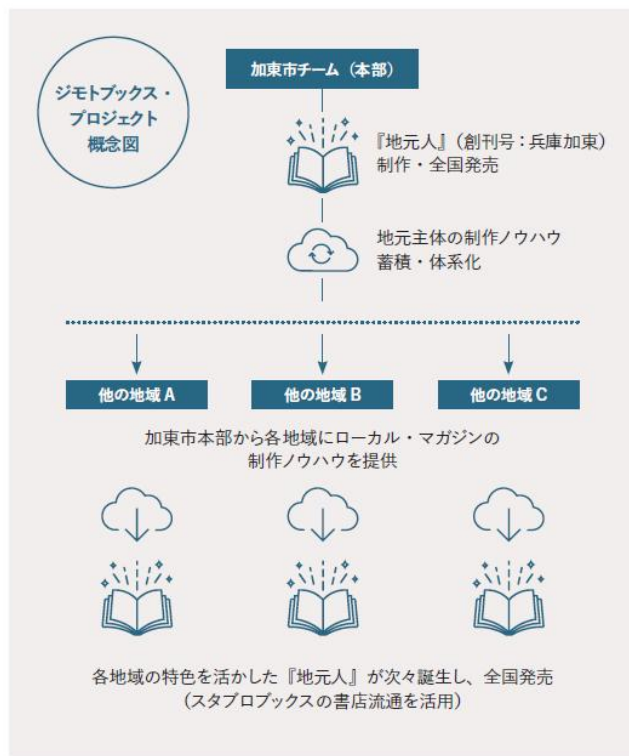
地元で本づくりチームを立ち上げ、そのチームで地元の本をつくる。なぜ地元でこのようなクレイジーな出版プロジェクトを企画しようと思ったのか？ そのきっかけから、仲間集めに奔走した日々、ジモトブックス・プロジェクトが動き出すまでの軌跡を、発起人のスタプロブックス高橋の視点で赤裸々に描きつくす。



なぜこの地で活動するのか？
 地元人プレーヤーの生き様から
 その地の魅力を描き出す



『地元人』は地域ごとに持ち回りで出版していくローカル・マガジンシリーズです



参加地域募集中!

ジモトブックス・プロジェクトに参加をご希望の「地域」を募集中です。
お気軽にお問い合わせください。

問い合わせはこちら

info@stablobooks.co.jp

スタブブックス株式会社
担当:高橋

JIMOTO BOOKS PROJECT

ジモトブックス・プロジェクト紹介

ローカル・マガジンの フランチャイズシステムを目指して

本書『地元人』は「地域刊」を銘打っています。地域刊とは、地域ごとに持ち回りで出版していく本プロジェクト独自のしくみです。まず創刊号の本づくりを加東市のチームでおこなうことで、地元主体の制作ノウハウを蓄積し体系化します。

その後、加東市のチーム (=本部) から他の地域に制作ノウハウを提供することで、各地で特色ある『地元人』シリーズが誕生していく、いわばローカル・マガジン版の「フランチャイズシステム」のようなイメージです。

このローカル・マガジンのフランチャイズシステムを「ジモトブックス・プロジェクト」と総称し、加東市から全国の他の地域に『地元人』を拡げていきます。こうして『地元人』を通じて地域と地域、地域と人をつなげていくのがジモトブックス・プロジェクトのビジョンです。

※「地域」のとりえ方について：都道府県、市区町村といった行政区域に必ずしも限定しません。生活圏・文化圏として捉えたエリアを広く「地域」ととらえます。(例) 地域ブランドとして確立している谷根子(谷中、根津、千駄木) など。



メディア掲載情報

地域紹介シリーズ本創刊

加東市で出版社「スタアプロックス」を経営する高橋武男さん(46)が、「地元人―Jimotojine(じもとじん)―」というシリーズ本を準備している。「地域らしきについて人を軸に描く」。そんなコンセプトのもと、全国の地域ごとに持ち回りで出版していくという。創刊号は故郷・加東市がテーマ。高校生を含む加東ゆかりの10人以上を「本づくりチーム」と位置付け、地元で活躍する美術家などの取材や寄稿依頼を進めている。12月末の発行を目指す。

(金井恒幸)

第1弾は加東

地元の宝物、住民が選んで取材

高橋さんは同市出身で、「ローカルクリエイター」社高から大阪の大学へ進学。将来は地元で好きな仕事をしたいという思いで、地元の人材を掘り出すことに興味をもち、地元で好きな仕事をして暮らすと、働く場所を選ばない立派な地元人になる人を探したい。大阪や東京などで活動、経験を重ね、2014年に加東市に帰郷。20年に出版社を立ち上げるきっかけとなった。

加東ゆかりのアーティスト、作家、編集者、社長を兼ねる「1人出版社」。都市部との垣根を越えて活躍する地方の人を取り上げた



加東市をテーマにした本を計画する高橋武男さん(加東市社)

短歌

◇下東条短歌教室
気兼ねなくウィークデーに遊べるのは年齢重ねたご褒美のやう
「石走る垂水のうへの早蕨の」書道の教科書むかしむかしの
手術後の経過もようしに添ひ老々介護の日々が始まる
朝からの雨が輪郭洗い出し水の器に集う差し傘
久々に訪ひくる姪を待つ朝一合多くちらし寿司作る

- 田中 春代
- 山本 満代
- 足立美佐子
- 河島 剛
- 中北 明子



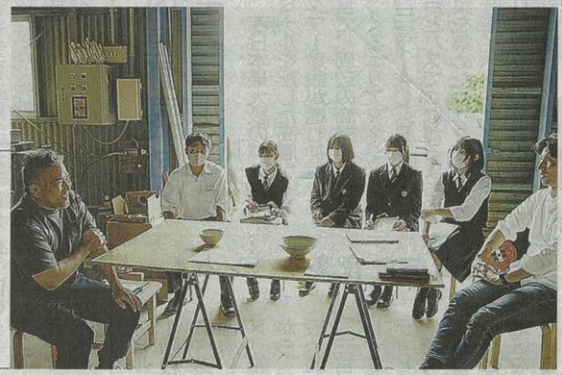
◇合歓の花短歌会

出版社経営の高橋武男さん 美術家や山田錦などが登場

その場に高校生も同行した。また、高校生は「地元高校生が考える地方創生」というコーナーを担当する予定で、同高校生が地元の魅力を伝えるために取り組んでいるバスツアーなどを取り上げたいという。

高橋さんは「聞き書きから、地元人の知恵や暮らしのふりをすくい上げ、今に生かす本づくりをしたい」と意気込む。

8月ごろから、クラウドファンディングを開始予定。「加東市民の1%に参加してもらい、地域で本づくりを体現したい」を目標にし、寄付者の氏名を本に掲載することも計画している。スタアプロックス 0705・20・6719



竹内絃三さん(左)を取材する高橋武男さん(右)と高校生(加東市内)

食べすぎの胃を休めるため七な電車にて夫の姿を見つけたり紙を散らすたびに止校



俳

加東市をテーマにした本の出版を、同市上田の出版社「スタプロブックス」が計画し、クラウドファンディング（CF）で資金を募っている。社高校生を含む加東ゆかりの人を「本づくりチーム」と位置

付け、地元で活躍する美術家などの取材や寄稿依頼を進めてきた。目標は100万円以上で、16日まで支援を募っている。2月中旬に出版を予定している。（金井恒幸）

ゆかりの美術家や作家、日本酒物語など取材

加東の本出版へ

資金支援募る



竹内紘三さん(右から3人目)を取材したメンバー。右端は高橋武男さん、ほかは社高校生など。加東市内(高橋さん提供)

同社を経営する高橋武男さんは「地元人」のタイトルで、全国の地域ごとに出版するシリーズ本の準備を進めている。その創刊号に、

故郷の加東市をテーマにした。取り上げるのは美術家・竹内紘三さんら地元のアーティストや児童文学作家▽

地元出版社がCF 社高校生ら執筆、2月刊行

鴨川ダム(東条湖)を主な水源とした水利▽水利の恩恵を受けて育つ高級酒米・山田錦や日本酒の物語」など。「酒場詩人」として知られ、加東市産山田錦PR大使を務める吉田類さんのインタビューや、「山田錦」乾杯まつり」のレポートも盛り込む。

社高生活科学科の生徒は「地元高校生が考える地方創生」というコーナーを担当した。地元をテーマにしたエッセーを執筆しているほか、地域の魅力を伝えるために同高生らが取り組んでいるバスツアーなどを紹介しているという。

A5判208頁を想定。事業費を約300万円と見込んでおり、その資金に充てたいと昨年12月16日にCFを始めた。支援金額に応じて、名前が本に掲載される▽「地元人」などの書籍セット▽竹内さんのアート作品」などの特典を用意。今月7日時点で50人が計87万5千円を寄せた。

高橋さんは「地域を挙げて出版を応援していただき、加東市を盛り上げていきたい」と呼びかける。CFサイト「レディーフォー」で「地元人」と検索する。スタプロブックス ☎0795・20・6719

見る 思う

「スタプロボックス」代表取締役 高橋 武男さん



人を軸に古里・加東の本づくり

地元の加東市で本づくりチームを立ち上げ、「地元の本」をつくる出版プロジェクトを進めています。その名も「地元人」（創刊号「兵庫加東」）。地域の主体は「人」だからこそ、人を軸に地元を描きたい、そんな思いで名づけました。

本づくりのメンバーは、恩師の元小学校教諭、地元行政に携わる市役所職員、知識豊富な文化会館の職員、SNSを広報などに活用する副住職、結婚を機に加東市にきた女性アーティスト、母校・社高の5人の生徒たちなど。高校生に参加してもらった理由は、地域の次代を担う若者の思いや感性を本に取り込みたかったからです。

2023年の夏ごろから本格的に本づくりをスタートさせました。仲間集めに始まり、チームミーティングや加東市を巡るツアー、地元で活躍する人たちへの取材活動、編集、そして執筆…。一心不乱に取り組んできました。

内容で特にごだわったのは、百ヶ規模のメイン特集「水物語」。先人が造り上げた東条川疏水の物語から始め、酒米・山田錦の最適な栽培環境を誇る特A地区の土壌、階段状になっっている地形を解説。加東市の地形は、なんと六甲山の形成過程と密接に関係しているのです。こうして水利と土地について語ったうえ、それを受け継いだ地元人の物語へと続いていきます。

伝えたいのはやっぱり「人」なんです。生まれ育った加東市松沢で米づくりに励む藤原弘三さん（藤原「専務取締役」の挑戦や、同市にUターンして国内外で高く評価されるアーティスト竹内紘三さんの生きざま…。いずれも「なぜこの地で活動するのか」、そんな問いで彼らの人生を深く見つめています。

そもそもなぜこんな本づくりをしているのか？「地元が好きだから」「地元のために」と勘違いされがちですが、そんな立派な理由ではありません。自分のスキルを使って地元でどんなチャレンジができるか。地元の人たちとどこまで主体的に動けるか。そんな実験的な意味合いがきっかけです。ですが、本づくりを続ける中で私自身に変化がありました。地元を知るほどに加東市が好きになってきたのです。地元の本を自分たちで編む行為とは見つけ直し、誇りを取り戻す「ことに他ならない」と感じています。

「地元人」（創刊号「兵庫加東」）は3月上旬発売予定で、全国の書店に置かれます。加東市や兵庫の人はもちろん、地方から都会に出た人も読んでもらい、それぞれの地元を見つめ直し、その地の誇りを取り戻すきっかけにしてほしいです。

最後に、本書は「地域刊」をうたっています。地域刊とは、地域ごとに持ち回りで出版していく本プロジェクト独自の仕組みです。創刊号の「兵庫加東」を完成させた後、他の地域で第2、3号と展開し、「地元人」を通じて全国の地域同士や、地域と人をつないでいきたい。

たかはし・たけお 1977年加東市生まれ。社高校、関西外国語大学を経てライター経験を積み、2020年に同市で出版社「スタプロボックス」を設立。「ローカルクリエイター」などの書籍を送り出した。